

2007年11月5日
RBC 国際ビジネス会議
全体会合第1セッション

尊敬する会議参加者の皆様！

丸紅の辻でございます。私は社団法人ロシアNIS貿易会、略称「ROTOBO」の副会長を務めております。ROTOBOを代表し、RBC国際ビジネス会議の参加者の皆様に、ご挨拶を申し上げます。

私どもROTOBOは、日本とロシア・NIS諸国との貿易・投資関係を促進するための団体です。この目的を達成するために、会員企業への情報提供、コンサルティング、ビジネスマッチング、各種行事の開催など、様々な事業に取り組んでいます。

今回、権威あるRBC国際ビジネス会議の組織をお手伝いするという役割を仰せつかりましたことは、私どもROTOBOにとって大変に光栄なことです。この場を借りて、我々をパートナーに選定してくださったRBCに、心よりの感謝を申し上げます。

皆様ご案内のとおり、日本とロシアの経済関係は近年、急激に拡大しております。日本の貿易統計によれば、昨年の日口貿易は総額で137億ドルを記録し、今年は200億ドル前後に達するものと予想されます。お陰様で、私どもROTOBOの会員企業数も、着実に増えています。

ただし、両国のポテンシャルからすれば、日口間の経済関係はもっと拡大してもいいはずです。現在のところ、日口経済関係を牽引しているのは、自動車の分野です。トヨタ、日産、スズキ、いすゞという自動車メーカーがロシアでの現地生産を決定し、それに促される形で、運輸や金融などのセクターでも動きが活発化してまいりました。今後は、この流れを自動車以外の産業分野にも波及させ、多角的でバランスのとれた日口経済関係を構築することが課題になってくるはずです。

残念ながら、日口間の貿易・投資関係には、いくつか紛争も発生しています。ロシアがきわめて有望な市場であるという点に関し、多くの日本人の認識は一致しています。しかし、ロシアへの投資を躊躇する企業心理もあります。それは投資に関する紛争の前例があるためです。ロシアの投資環境が改善されてきているというイメージを確立することが求められています。日本企業がもっと積極姿勢を示すことも重要ですが、ロシア側にもぜひ法治主義を徹底していただき、日本企業が安心してロシアに進出できる環境を整備していただければと、切に願うところでございます。

幸い、今回の会議には、日口両国の財界および官界から、多くのキーパーソンにご出席をいただいております。本日、明日と、非常にバラエティーに富んだセッションが予定されておりますので、各論にまで踏み込ん

だ率直な議論ができるものと期待しております。

今回東京で開催されます第16回RBC国際ビジネス会議が、日ロ双方にとって実り多いものとなり、両国経済関係のより一層の発展の土台となることを願ってやみません。

ご清聴ありがとうございました。